

第76回日本医学会定例評議員会

平成21年2月25日(水) 於・日本医師会館小講堂

午後3時開会

議長(高久日本医学会長) 時間になりましたので、ただ今から第76回日本医学会定例評議員会を開催いたします。先生方、ご多忙のところ、お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。本日の出席者定数は105名ですが、現在91名のご出席をいただいております。1/2以上の方の出席を得ていますので、この会議は成立しています。

日本医師会会長挨拶

議長(高久日本医学会長) 最初に、日本医師会の唐澤先生からご挨拶をよろしく願います。

唐澤日本医師会会長 日本医師会の唐澤でございます。

現在、日本医学会には105の学会が加盟していると伺っています。また、本日の議題を拝見しますと、新たな学会の加盟を審議、承認される運びとなっているようですが、日本医学会が名実共にますます磐石なものになられますことは、ご同慶の至りであります。

さて今日、再生医療はもとより、あらゆる分野において医療は急速に進展しています。数年前の治療法が過去のものになるといった例は枚挙にいとまがありません。国民の恩恵は非常に大きいものがあると思います。まさに目を見張る勢いです。

一方で、医師不足と、地域や診療科による医師の偏在は、医療崩壊という危機的状況をつくり出しています。これは決して一地方の問題ではなく、都心部にまで及んでいるところに今日の問題の深刻さがうかがわれます。本日も出席の多くの先生

方も、こうした状況を実感されていることと存じます。そのうえ、通常の診療行為による患者さんの死亡事故が刑事罰の対象になるという問題も、こうした状況を生み出す要因の1つになっているかとも思います。これは、基本的には、1990年代から連綿と続けられている医療費抑制策、削減策が背景にあると思います。

こうした状況を打開するために、日本医師会は多くのエネルギーを使っています。私どもは、いつでもどこでも、だれもがすぐれた医療の進歩の恩恵に浴することができる世界に冠たる国民皆保険制度を堅持していくためにも全力を尽くしています。日本医学会の先生方には、会員の生涯教育をはじめ、医学の側面から、これまで以上のバックアップをお願いする次第です。

常に言われていることですが、申し上げるまでもなく、日本医学会と日本医師会は車の両輪であります。2つの輪がバランスを取り合って進むことで国民医療の増大に大いに寄与できるものと思います。今後とも一層のご協力をお願いいたしまして、また先生方の一層のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、簡単でございますが、ご挨拶とさせていただきます。(拍手)

議長(高久日本医学会長) 唐澤先生、どうもありがとうございました。

先生はご用事で、途中でご退席なさいます。

■議事録署名人指名

議長(高久日本医学会長) それでは次に、本日の評議員会の議事録署名人の指名をさせていただきます。

議事録の署名人として、基礎・社会医学系から

第 76 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	酒井 シヅ	日本衛生動物学会	松岡 裕之	日本核医学会	日下部きよ子
日本解剖学会	岡部 繁男	日本交通医学会	花岡 一雄	日本生殖医学会	(欠)
日本生理学会	倉智 嘉久	日本体力医学会	吉岡 利忠	日本救急医学会	(欠)
日本生化学会	岡山 博人	日本産業衛生学会	清水 英佑	日本心身医学会	野村 忍
日本薬理学会	(連)中谷 晴昭	日本気管食道科学会	甲能 直幸	日本医療・	
日本病理学会	(連)岡田 保典	日本アレルギー学会	西間 三馨	病院管理学会	(連)上塚 芳郎
日本癌学会	野田 哲生	日本化学療法学会	戸塚 恭一	日本消化器	
日本血液学会	須田 年生	日本ウイルス学会	野本 明男	内視鏡学会	(連)税所 宏光
日本細菌学会	(欠)	日本麻酔科学会	(代)増田 純一	日本痛治療学会	幕内 博康
日本寄生虫学会	渡辺 直熙	日本胸部外科学会	(連)桑野 博行	日本移植学会	(欠)
日本法医学会	中園 一郎	日本脳神経外科学会	寺本 明	日本職業・	
日本衛生学会	小泉 昭夫	日本輸血・		災害医学会	(連)調所 廣之
日本民族衛生学会	丸井 英二	細胞治療学会	高橋 孝喜	日本心臓血管外科学会	高本 眞一
日本栄養・食糧学会	橋詰 直孝	日本医真菌学会	渡辺 晋一	日本リンパ網内系学会	森 尚義
日本温泉気候		日本農村医学会	藤原 秀臣	日本自律神経学会	岩田 誠
物理医学会	猪熊 茂子	日本糖尿病学会	門脇 孝	日本大腸肛門病学会	望月 英隆
日本内分泌学会	(代)伊藤 裕	日本矯正医学会	(連)加藤 昌義	日本超音波医学会	田中 幸子
日本内科学会	永井 良三	日本神経学会	葛原 茂樹	日本動脈硬化学会	下門顕太郎
日本小児科学会	(欠)	日本老年医学会	大内 尉義	日本東洋医学会	石野 尚吾
日本感染症学会	(連)山口 恵三	日本人類遺伝学会	稲澤 讓治	日本小児神経学会	(代)小國 弘量
日本結核病学会	森 亨	日本リハビリ		日本呼吸器外科学会	安元 公正
日本消化器病学会	菅野健太郎	テーション医学会	里宇 明元	日本医学教育学会	伴 信太郎
日本循環器学会	(連)和泉 徹	日本呼吸器学会	(欠)	日本医療情報学会	田中 博
日本精神神経学会	小島 卓也	日本腎臓学会	(代)渡辺 毅	日本疫学会	(連)山口 直人
日本外科学会	名川 弘一	日本リウマチ学会	(欠)	日本集中治療医学会	(欠)
日本整形外科学会	(欠)	日本生体医工学会	(連)安藤 讓二	日本平滑筋学会	佐々木 巖
日本産科婦人科学会	吉村 泰典	日本先天異常学会	塩田 浩平	日本臨床薬理学会	川合 眞一
日本眼科学会	(連)根木 昭	日本肝臓学会	井廻 道夫	日本神経病理学会	(連)池田 和彦
日本耳鼻咽喉科学会	市川銀一郎	日本形成外科学会	平林 慎一	日本脳卒中学会	天野 隆弘
日本皮膚科学会	飯塚 一	日本熱帯医学会	太田 伸生	日本高血圧学会	(欠)
日本泌尿器科学会	(連)北村 唯一	日本小児外科学会	伊川 廣道	日本臨床細胞学会	(欠)
日本口腔科学会	戸塚 靖則	日本脈管学会	(連)宮田 哲郎	日本透視医学会	(代)草野 英二
日本医学放射線学会	遠藤 啓吾	日本周産期・新生児医学会	(欠)	日本内視鏡外科学会	(代)土屋 了介
日本保険医学会	白水 知仁	日本人工臓器学会	(欠)	日本乳癌学会	(連)芳賀 駿介
日本医療機器学会	(欠)	日本免疫学会	高津 聖志	日本肥満学会	(代)宮崎 滋
日本ハンセン病学会	後藤 正道	日本消化器外科学会	杉原 健一	日本血栓止血学会	鈴木 宏治
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	日本臨床検査医学会	宮澤 幸久	日本血管外科学会	古森 公浩

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員 高久会長、岸本・久道・矢崎各副会長
 (幹事) 森本、池田、吉本、八木、齋藤、門田、篠田、金澤、幕内、篠原、中村、古瀬
 (欠席：清水、今井、奥村、北村、杉岡、實成)
 (オブザーバー) 山口、園尾
 総会 (第 28 回) 矢崎会頭、開原・鈴木各副会頭、永井準備委員長、山崎幹事長
 (欠席：小川副会頭)
 (オブザーバー) 事務局 藤
 日医 唐澤会長、岩砂副会長、飯沼常任理事

は日本解剖学会の岡部繁男先生、臨床医学系は日本皮膚科学会の飯塚 一先生のお二人によるしくお願いいたします。

■次第（議事概要）説明

議長（高久日本医学会長） 本日の評議員会の議事の概要ですが、報告事項として、第28回日本医学会総会の準備状況の報告、さらに、2008（平成20）年度日本医学会年次報告の件、協議事項として、2009（平成21）年度日本医学会事業計画の件、2008（平成20）年度日本医学会加盟学会の件があり、その次の「その他」では、ご意見をお伺いしたいと思います。

日本医学会長挨拶

高久日本医学会長 それでは、最初に日本医学会長としてご挨拶をさせていただきます。

今、唐澤先生からもお話がありましたように、日本の医学・医療を取り巻く状況には非常に厳しいものがあり、学会としても一致団結してこのような状況に対応する必要があるのではないかと思います。

日本医学会は現在、基礎、社会、臨床の3つの部会に分かれて活動しています。特に臨床に関しましては、専門医の問題、あるいは以前から問題の医療安全調査委員会の問題でありますとか、臨床を取り巻く問題が非常に数多くあります。後でご報告申し上げますが、臨床部会のなかに運営委員会を開催させていただいて、適宜対応させていただいているのが現状です。

そのほか、20年度年次報告のなかでまたいろいろと現状についてご説明を申し上げたいと思いますので、簡単ですが、私の挨拶とさせていただきます。

第28回日本医学会総会準備状況報告

議長（高久日本医学会長） 引き続きまして、第28回日本医学会総会の準備状況について、矢崎会頭からお願いいたします。

矢崎第28回日本医学会総会会頭 第28回日本医学会総会の世話役のご指名を受けています。

矢崎です。

第28回日本医学会総会は、今、唐澤会長のお話にありましたように、分子生物学の進歩とともに医学・医療は目覚ましい進歩を遂げましたが、その一方では、国民の皆さん、患者さんの過大な期待に応えていかなければならないので、この機会にいろいろな問題を相互に理解し、信頼し合うようなきっかけになるような企画を考えています。もちろん、医学・医療の最先端の進歩もまとめてご報告申し上げますが、具体的には準備委員長の永井先生からご説明をよろしくお伺いしたいと思っています。

永井第28回日本医学会総会準備委員長 準備委員長を仰せつかっています東京大学の永井です。先生方にはいろいろお手数をおかけすると思いますが、よろしくお祈りします。

お手元の日本医学会年次報告の1ページに、現在の準備状況についてまとめています。また、第28回日本医学会総会開催趣意書のなかには、最初にポスターが挟み込まれているかと思しますので、また後ほどお目通しをいただければと思います。

まず、全体的な概観ですけれども、今回の医学会総会のテーマは、矢崎会頭といろいろご相談した末、また、準備委員の先生方からもいろいろアイデアをいただいて、「いのちと地球の未来をひらく医学・医療—理解・信頼そして発展—」というメインテーマとさせていただきました。

現在、9つあります委員会のほうで協議を続けています。簡単に各委員会の状況をご説明させていただきます。

開催時期ですが、2011（平成23）年4月8日～10日、東京国際フォーラム、丸ビル、東京商工会議所の丸の内エリアがまず学術講演会の中心です。

展示のほうは、一般公開と医療従事者向けと二通りありまして、一般公開につきましては、東京ビッグサイトで4月2日～10日の9日間、学術講演会よりも長い期間展示を行います。医療従事者向けの学術展示会は、学術講演とほぼ重なっていますが、4月7日～10日、やはりビッグサイト

で行います。一部、医学史展示等につきましては丸の内エリアを考えています。

学術講演では3万人の登録参加をお願いしたいと思っていますし、博覧会につきましては、一般の方35万人の参加者を見込んでいます。おおよその事業費は約16億円程度であろうと考えています。

学術幹事会を年に4回開催していますが、300程度のセッション数のなかに集約され、今後それをプログラムにしていこうということで、臨床医も基礎の先生方も興味を持てる内容にしたいと考えています。

委員会の内容としては、総務委員会は、千葉大学の徳久教授に委員長をお願いしていただき、講演会場とか施設の検討、あるいは移動計画等を現在考えています。

学術委員会は、国立国際医療センターの桐野総長に委員長をお願いしていただき、基礎、臨床、社会、コメディカル領域の4つに大別しまして、それぞれ案をいただき、300余りのセッションのテーマの候補を挙げています。

医学会総会はもともと分科会の積み上げであるという認識がありますので、今、各セッションのテーマ、内容につきまして、それぞれ分科会と結び付きをちゃんと付けて細かい内容の検討に入っています。各分科会の先生方には、このようなプログラムでよろしいかどうか、現在問い合わせが届いていると思いますので、ご回答のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、学術委員会では、総会の目玉であります開会講演、閉会講演等の演者選定も現在進行中であります。

展示も非常に重要な企画でありますし、予算も非常にかかるわけでありますが、展示のテーマを「わが国医学・つくりたい健康 EXPO2011」というテーマにいたしまして、ワーキンググループ(WG)、たとえば「わかるWG」、「とりくむWG」、「つくるWG」、「学術展示WG」、さらに今後は、医学の発展に関するWG、市民啓発イベントに関するWG、インターネット展示に関するWG、こういういろいろなWGをつくりまして、若い世代の先生

方にも積極的に加わっていただきて企画を進めています。

広報委員会は、慶應義塾大学の小川教授に委員長をお願いしています。ロゴマークが総務委員会でできましたので、それに合わせて今ポスターのデザイン等を進めていますし、また、参加登録推進のための広報活動、特にプレシンポジウムという、前年からいろいろな企画を進めていこうということで現在活動を進めていただけています。

登録委員会では、今回、少し会費を値下げしようかという話が出ていまして、登録費を下げて、より多くの方に参加いただけるような方策を検討中です。登録費をいくりにするかはまた後ほど検討して、決まり次第ご報告したいと思ひますが、矢崎会頭のご意向もありまして、登録費値下げの方向で検討しています。

記録委員会は、順天堂大学の富野康日己教授に委員長をお願いしています。現在の課題は、第25回総会のときに『医の現在』という岩波新書の出版が行われまして、これが大変好評であったということで、それに匹敵するもの、あるいはそれを超えるような出版をこの委員会で進めようということで、内容等について現在検討中であります。

次に式典委員会ですが、これは東京女子医科大学の大澤眞木子教授が委員長です。4月7日の会頭招宴の検討、また、アトラクション等についても現在討議をしているところです。

財務委員会は、東京慈恵会医科大学の阿部教授が委員長でいらっしやいまして、先ほどお話ししました総予算約16億円ということで第1次予算案を作成しています。

ソーシャルイベント委員会、これは東京都医師会の日澤理事が委員長として、東京都医師会の全体的なご協力のもとに、ゴルフ、ジョギング、ラグビー、剣道等14種目を開催する予定です。

そのほか、会場あるいは事務局については、年次報告の2ページの下に記載してあります。準備委員会からのご報告は以上です。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。準備に当たられる先生方、大変だと思ひますけれども、ぜひ成功裏に進行するように

よろしくお願ひいたします。

2008(平成20)年度日本医学会年次報告

議長(高久日本医学会長) 引き続きまして、ただ今から平成20年度の年次報告をさせていただきます。お手元に「2008(平成20)年度 日本医学会年次報告」がありますので、これを随時ご覧になりながらお聞きいただければと思います。

最初の1, 2ページ目は、今、矢崎先生、永井先生からご説明がありました第28回日本医学会総会の準備状況です。

3ページ目が日本医学会シンポジウムでして、2008年には日本医学会シンポジウムを2回開催しています。最初は、第134回に当たりますが、「感染症をめぐる最近の話題」ということで、岡山大学特任教授の竹田先生を中心に、エイズをはじめ、マラリア、あるいはインフルエンザもそうですが、世界的に問題になる感染症をテーマに取り上げていただきまして、386名の参加を得ています。

第135回は昨年12月4日に開催し、「腎と全身疾患—CKDをめぐる最近の話題」ということで、順天堂大学の富野先生をはじめ、3名の先生方に企画していただきまして、238名の参加を得ています。

4ページ目は、日本医学会シンポジウムの企画委員会ならびに組織委員会のことを書いています。

「4) 日本医学会シンポジウム記録(DVD)」は、日本医学会としてこのシンポジウムの記録をDVDに撮り、これを関係各位に配っています。また、DVDの内容は日本医学会のホームページの「Onlineライブラリー」のほうで映像配信をしていますので、ご参考にしていただきたいと思ひます。

今申し上げた日本医学会シンポジウムは、医学・医療、製薬関係とか薬学関係の方、医師と専門の方を対象にしたものですが、日本医学会公開フォーラムは一般の方を対象にした講演会でして、シンポジウムと同じように日本医師会の大講堂をお借りして数年前から開催しています。昨年

2008年は第6回日本医学会公開フォーラムとして「医学・医療の今—がんに挑む—胃がん」ということで、胃がんを取り上げ、6月7日に開催し、396名の参加を得ています。垣添国立がんセンター名誉総長が組織委員長です。

2回目は、10月4日に同じく日本医師会館大講堂で、「メタボリックシンドローム」をテーマとして、筑波大学の山田教授に組織委員長になっていただきまして、これも309名の参加を得て、いずれも一般の方々から多くのご質問をいただいています。

6ページをご覧いただきたいと思ひます。日本医学会幹事会は先ほど開催いたしまして、年次報告、事業報告、あるいは新規加盟、総会準備状況などを討論いたしました。

7ページ目ですが、日本医学会定例評議員会を現在開催中です。

次に、同じく7ページは「6. 日本医学会臨床部会会議」についてです。ご案内のように、日本医学会は、基礎、社会、臨床の3つの部門に新たに構成し直しました。臨床部会は現在73の学会で構成されていまして、2008年10月8日に第2回の日本医学会臨床部会会議を開催しました。また、2007年6月の第1回臨床部会会議の終了後、活動の機動性を高めるために、臨床部会のなかに新たに運営委員会をつくることを決めさせていただきました。臨床系の学会で課題になっている懸案を討議することを目的といたしました。そして、臨床運営委員会の下部組織として3つの作業部会、すなわち、「診療関連に関する作業部会」、「専門医制の作業部会」、「公益法人に関する作業部会」の3つの作業部会を設置し、おのおの作業部会長を決めさせていただきました。

なお、臨床部会運営委員会と3つの作業部会の活動内容の詳細は日本医学会のホームページに掲載していますので、ご参照いただきたいと思ひます。

次に、「日本医学会臨床部会運営委員会」ですが、10の基本領域の学会と2つの subspecialty の学会から構成されていまして、基本領域の学会の委員として、池田、別所、橋本、鹿島、門田(委員

長)、四宮、落合、根木、八木、山本、それから subspecialty の学会の委員として山口、杉原の先生方が入っています。

2008年度の運営委員会は、第4回目の委員会が6月5日に開催されまして、そのときの議事としては、「医療安全の確保に向けた医療事故による死亡の原因究明・再発防止等の在り方に関する試案—第3次試案—に対する意見」、これは厚労省から第3次試案に対する意見を求められ、日本医学会としても第3次試案に対して意見を述べる必要があるということで運営委員会で討論し、第3次試案について意見をまとめて、同日に、日本医師会の場所をお借りして、第3次試案に対する日本医学会の意見を記者会見で公表いたしました。年次報告の綴じ込みに見解を掲載しているので、ご参照いただきたいと思ひます。

臨床部会の運営委員会は7月31日にも開催されていて、そのときの議事は、①「臨床研究における被験者の保護と倫理の確保に関する声明」について、②「診療関連死の死因究明制度創設に係る公開討論会」の意見についてでありました。①「臨床研究における被験者の保護と倫理の確保に関する声明」については、年次報告の綴じ込みに見解を掲載していますので、ご参照いただければと思ひます。

さらに、10月8日には第6回の運営委員会を開催し、臨床研究医師の教育と養成ということについて議論をいたしました。

次に「日本医学会専門医制に関する作業部会」は臨床部会のなかで、専門医制評価・認定機構と合同の形で開催しています。

また、「日本医学会公益法人化に関する作業部会」は池田慶應義塾大学教授が中心になって検討中でして、これは日本医師会のほうで公益法人化に関する検討をされていますので、担当の今村 聡日本医師会常任理事からいろいろと教えていただいて検討しているところです。

10ページをご覧になっていただきたいと思ひます。「日本医学会診療関連死に関する作業部会」は平成19年度に発足して、虎の門病院の山口 徹先生が部会長であります。第2回の診

療関連死に関する作業部会が8月21日に開催されています。その際には、足立信也参議院議員と梅村 聡参議院議員の民主党の議員の方から民主党案の説明をいただいています。この問題に関しては、臨床部会としてはきわめて重要な問題でありますので、今後とも引き続き検討を続けていきます。

なお、第3回の作業部会が12月25日に開催されていて、そのときには、第3次試案の後に、出ました医療安全調査委員会設置法（仮称）大綱案についての検討をいろいろ行っています。

11ページをご覧になっていただきたいと思ひます。「診療関連死の死因究明制度創設に係る公開討論会」を、日本医師会の大講堂をお借りして昨年7月28日に開催しました。主催は日本医学会、協賛は日本医師会、日本病院団体協議会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本薬剤師会でありまして、当時、この会議にかなりの方がご出席いただきまして、厚生労働省が出しました大綱案に対して賛成する意見と、それに反対する意見の両方が出されまして、非常に活発な議論がなされました。

一般的には、ご案内のように、死因究明制度の創設に対しましては、すでに日本医学会に加盟している19の学会が究明制度を創設するようという提案をしていますので、日本医学会としては基本的にこの制度を創設することには賛成であります。しかし、その内容についてまだまだいろいろな議論があるということをこの公開討論会で確認させていただきました。

次に「日本医学雑誌編集者組織委員会」であります。これは、昨年、日本医学雑誌編集者組織委員会として新たに発足いたしました。委員長は北村 聖東京大学医学教育国際協力研究センター教授、委員は8名で構成されています。

12ページをご覧になっていただきたいと思ひます。なぜこういう委員会がつくられたかといいますと、いろいろな学会から学会雑誌が出ていますが、引用文献の引き方とか論文全体、いろいろな学会雑誌をなるべく統一し、国際的に通用する形にしたいということで、組織委員会が開かれまし

た。

第1回が昨年5月20日に開催されていました。そのときにはWHO西太平洋事務所主催のアジア太平洋医学雑誌編集者会議の報告と、日本医学雑誌編集者会議のあり方についての討論が行われました。第2回目の医学雑誌編集者組織委員会は、本年の1月23日に開催し、この問題に関して今年、シンポジウムを開催してはどうかという意見が出ています。

13ページをご覧になっていただきたいと思います。「日本医学会医学用語管理委員会」は、開原先生が委員長でして、12名の委員から構成されています。本年度は第14回の委員会を8月29日に開催しています。本委員会の今年度の主な業務としては、『日本医学会医学用語辞典』のWeb掲載の更新作業および厚生労働省の「標準傷病名」の改訂作業への協力ということでいろいろ議論がありました。

『日本医学会医学用語辞典 英和』の改訂第3版は、2007年4月5日に、CD-ROMをつけた形で刊行し、また同時に、第3版を日本医学会のホームページに載せて、各学会から変更のご連絡を受けたときに、それを随時Webに掲載して、Web上では新しい情報が新しい辞典となって常に更新されています。開原先生のご尽力で非常に新しい形の医学用語辞典として、『日本医学会医学用語辞典 英和 第3版』は有用なものとなっていますので、各分科会の機関誌の編集要綱にぜひご利用いただきたいと思っています。

また、分科会の用語を統一するために、分科会あてのメールの一斉送信を活用して各分科会の意見をお聞きしていただき、それに応じて、先ほど申し上げましたようにWebで常に更新していることをご報告したいと思います。

今報告したのは用語管理委員会ですが、11月20日に「日本医学会分科会用語委員会」が日本医師会の小講堂で開催されていて、各分科会からの用語委員の方々にご出席いただきまして、いろいろなお意見をいただきました。

次の「日本医師会医学賞・医学研究助成費選考委員会」は、日本医学会が日本医師会から医学賞・

助成費の選考作業を委任されているものでありまして、9月10日に開催されました。委員は会長、副会長、幹事を中心に構成して、テーマに応じて特例委員として専門の方々に入っていただいています。2008年度は医学賞3名、医学研究助成費15名が選考されています。15ページにありますように、自治医科大学の間野教授、滋賀医科大学の上島教授、慶應義塾大学の日比教授の3人が日本医師会医学賞を受賞されています。また、日本医師会医学研究助成費に関しましては15、16ページに掲載されていますので、ご覧になっていただければと思います。

「日本医学会加盟検討委員会」につきましては、この後の討議事項でまた報告をさせていただきたいと思っています。

「日本医学会あり方委員会」につきまして、平成16年度に発足いたしまして、随時日本医学会のあり方についてご討論をいただくことになっていきます。

次に17ページの「日本専門医制審議会」は、もともと専門医制度については、日本専門医制評価・認定機構を中心に検討されているわけですが、その検討をある意味でお助けするというか、あるいは外からサポートするという形で日本専門医制審議会を開催させていただいています。これには学識経験者と、日本専門医制評価・認定機構、日本医師会、日本病院会、それから一般の方として日本経済新聞社の論説委員の渡辺氏、こういう方々に入っていただきまして、9月26日に開催しています。主に日本専門医制評価・認定機構の進捗状況をお伺いして、それにわれわれの意見を述べる形になっています。

最後に、「日本医学会だより」、今年度は5月に39号、10月に40号を発行しています。綴じ込みの「日本医学会だより」を参照いただければと思います。

18ページは、2000年10月に日本医学会のホームページを開設していますけれども、日本医学会分科会のご協力を得て、本会のホームページと分科会のホームページをリンクしていますので、ご利用いただければと思います。

また、「22. 会議等の開催数」ということで18、19ページに書いていますので、ご覧になっていただければと思います。

簡単に平成20年度日本医学会予算の概要でありますけれども、日本医学会の予算額としては、平成20年度は1億4,395万7,000円という額になっていることをご報告申し上げます。

2009(平成21)年度日本医学会事業計画

議長(高久日本医学会長) 引き続きまして、平成21年度の事業計画についてご報告を申し上げます。これも、お手元に平成21年度の事業計画がありますので、ご覧になっていただければと思います。

大体基本的には、今ご報告申し上げました2008(平成20)年度の年次報告とほとんど同様であります。

最初は第28回日本医学会総会のこと、引き続き、日本医学会シンポジウムにつきましては、2009年の7月ごろに第136回日本医学会シンポジウム「がんの集学的治療の最前線—食道がん、胃がんを中心に—」を開催する予定です。公開フォーラムも「メタボリックシンドローム—糖尿病」「メタボリックシンドローム—高血圧」ということで6月20日と10月10日に開催する予定です。また、医学用語管理事業ですとか、日本医師会医学賞・医学研究助成費選考委員会、あるいは日本医学会加盟検討委員会、日本医学会あり方委員会など、2008年に報告したのと同じであります。

現在、医療界をめぐっては激動の状況にありますし、また、医学・医療についていろいろな問題が提起されています。厚労省あるいは文科省から、いわゆるパブリックコメントを求められる機会がありまして、これはやはり必要に応じてパブリックコメントに対して日本医学会としての意見を述べる必要があると考えています。その場合には、特に今までは臨床的な問題が多かったのですが、臨床問題に必ずしも限らないと思いますので、必要に応じて基礎、社会、臨床の部会の方々のご意見をお伺いして、日本医学会としてのコメントを

出していきたい、そのための会議を随時開催させていただきたいと考えています。そのとき、各分科会の先生方にもいろいろご意見をお伺いすることがあると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

また、主に厚労省からありますが、たまに文科省などから各分科会のほうにいろいろな問い合わせ、あるいは日本医学会から要望を出してくれという要請があります。われわれのほうで判断して、適切と思われるものについては、各分科会に厚労省からの文書をすでにお返ししていることも皆様方ご存じのとおりです。2009年においても同じことが行われると理解をしていますので、その際にはよろしくご協力をお願いしたいと思ひます。

2008(平成20)年度日本医学会 新規加盟学会

議長(高久日本医学会長) 次に、協議事項の2008(平成20)年度日本医学会加盟学会の件について、久道先生からよろしくお願ひいたします。

久道加盟検討委員長 加盟検討委員会の委員長をしています久道です。

今年度の加盟検討委員会は昨年11月12日に開催されました。そこで、最終的には2つの学会が分科会としてふさわしいということで、先ほど行われた日本医学会幹事に諮っていただき、そこでご承認をいただきました。2つの学会のやや詳しい資料を今配付していただいているところであります。

委員は13名の方々をお願いしています。今年度の加盟申請は28学会でした。この28学会から、分科会としてふさわしい学会はどこかということで、この委員会のメンバーの方々にご投票、点数をつけていただきまして、その点数の総合点で特に高いものを選ばせていただきました。

そのなかで、今お手元にお配りしております2つの学会、日本レーザー医学会と日本臨床腫瘍学会の2学会が分科会としてふさわしいのではないかと結論が出て、先ほどお話ししましたように幹事会にお諮りをし、承認を得て、この評議

員会で承認をいただければ、正式に分科会として加盟していただくことになります。

今配付した資料をご覧いただきたいと思います。日本レーザー医学会については、ここに沿革とか学術関連の活動状況のポイントが書いてあります。それから会員数、役員構成、雑誌の発行等々ということとして、「総合的判断としては、レーザー医学の発展を考えると、独自性、国際性が高い学会である。レーザーの取り扱いについては細心の注意が必要であり、いかに安全に診療、治療に利用していくかに関して、特に本学会は重要な役割を担うことができるので、分科会としてはふさわしいと考える」という判断でした。

もう1つの日本臨床腫瘍学会、これもその資料に書いてありますが、会員数、役員数、学術集会、雑誌等々は記載のとおりです。最後に書いてありますが、「総合的判断としては、1993年に日本臨床腫瘍研究会を創設後、2002年に日本臨床腫瘍学会が設立され、その活動が他学会に比較して長いとはいえないが、会員数が多く、活動が活発であり、国際性も高く評価できる。また、日本癌治療学会との関連において、その類似性の問題はありますが、本学会はがん薬物療法専門医の認定制を発足し、その重要性は高い。英文誌のImpact factorも高く評価できるので、分科会としてふさわしいと考える」ということで、検討委員会としてはこの2学会を分科会として新たに加入してはどうかという提案です。どうぞご審議いただきたいと思います。

なお、現在行われている審査基準は、実は1996年につくられ、そのときから新しい審査方法で行うようになりました。現在の学会のいろいろな趨勢から鑑みて、もう少し見直しをするところがあるのではないかということで、現在、検討委員会では、委員の先生方にアンケートを取りながら見直しをしています。来月の11日にこの検討会を再度開催して、最終的な結論を得て、次年度の加盟申請の公示、これは5月15日から7月31日の間と予定していますが、それに向けて結論を出してまとめたいと考えています。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございます。

ございました。

今、久道先生からご報告がありましたように、加盟検討委員会では日本レーザー医学会と日本臨床腫瘍学会の2つの学会の加盟を認めるということを決定いたしました。先ほど開かれました幹事会で承認を得ています。この評議員会でもご承認をいただければと思います。

高本評議員 今、基準を見直すというお話でしたけれども、28学会のなかで2つを選んだということですね。この2つだけが点が高かったのか、もともと2つしか選ばないと決めておられたのか、どちらでしょうか。

久道加盟検討委員長 28の学会のなかで総合点数が飛び抜けて2つだけが高かったということでありまして、最初から2つを選ぼうとか、そういう数の制限はしておりません。

高本評議員 ほかの学会はどういうふうなことから私はよく存じ上げませんが、それなりにいろいろな学会がいろいろ活動しているわけですね。社会的にもいろいろ活動されているし、点数をつけるのはいいと思いますが、はたして本当にそれがまともな評価なのかどうか、はたして評価する側が評価するに足る十分な資格をもっているかどうかということも大きな問題だと思うのです。

考えてみれば、この日本医学会、私もそのなかに一応何かの形でやっていますが、日本医学会の社会的な要請はずいぶん国民から大きいと思いますけれども、それに十分応えているとはとてもいいがたいと思うのです。その医学会が、こうやってほかの学会を評価するということは本当にできるのかどうか。もし、この審査委員が日本医学会を評価したら、日本医学会は落ちるのではないかと、私はそう思うのです。ですから、ある程度点数の評価というのは必要でしょうけれども、そんなに数を限ることもないでしょう。もっといろいろな学会を多く入れてやったほうがはるかにいいのではないかと思います。なおさら医学会そのものは、もっと社会的な要請に応えるべく、ちゃんとした仕事をしなければならぬと思うわけです。

議長(高久日本医学会長) 日本医学会の加盟に

については長い歴史がありまして、従来は確か4年に1回加盟をしていたのです。今は3つの部会に分かれていますけれども、前はもっとたくさんの部会に分かれています、そのときには評議員会で、各部会で選挙をして、選挙で通った学会が4年に1回、4つ加盟ということになっていたのです。ところが、選挙運動がずいぶんありまして、いろんな批判もあって、確か13年ほど前に加盟の審査のための条件を検討する委員会を、その当時の小泉副会長の下につくられまして、それで審査基準をつくったわけです。4年に1回というのはおかしいだろう、毎年加盟の可否を検討しようということで、その当時は4年ごとに4つの加盟でしたので、1年に1つと決めたのですけれども、特に数に制限をする必要はないのではないかと。その前までは、日本医師会から年間にわずかありますけれども、各分科会への助成費を受けていたのです。それをなくしたものですから、現在は、年によって1つから3つの学会が加盟ということになっています。

やり方としては、久道先生が今言われたように、審査委員会のなかで審査をして投票して、1つだけ抜きん出ている場合には1つ、2つ抜きん出

いたら2つ、3つ抜きん出ているなら3つにしたのですけれども、これは確かに投票した点数が高いということで、いわゆる審査委員の方々の意見を尊重しているわけです。実際問題として、当初に加盟したといいますが、昔投票で加盟された学会のなかには今の審査基準で少し問題があるのではないかという学会がないわけでもないのですけれども、しかしそれを加盟から外すということは非常に難しいということで現在に至っています。

確かに、高本先生のおっしゃったように、日本医学会が加盟審査をされると落ちる可能性は十分にあるかと思います(笑)。しかし、医学会としても、いろんな制限があるなかでも、何とか社会的に発言して、その存在価値を示したいという努力はしているつもりです。今のご意見は承っておきたいと思います。

ほかにどなたか、ご意見があればどうぞご自由に。よろしいでしょうか。

特にご意見がなければ、これで第76回日本医学会定例評議員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

午後3時59分散会